

平成24年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

9

福岡県立小倉南高等学校長

(NO1)

学校運営計画				評価		
学校運営方針	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成を図ることを教育活動の基本とする。					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		B		
組織的・計画的指導の推進により一応の成果がみられた。さらに進学体制の充実を目指して、主任主事を核とした校務運営の充実を図り、学年やクラスがそれぞれ到達目標を明確に掲げ、具体的かつ統一的な実効性のある教育活動を展開できた。また、今年度も教育活動内容を迅速に分析・検証・点検し、系統的、組織的指導体制の確立を目指す。生徒一人一人の進路実現に向け、創意工夫に充ちた学習指導や生徒指導を目指した教員の指導力向上、効率的な学校運営等、学校力向上に努め、保護者及び地域社会により一層信頼される学校づくりを推進する。	自主的学習態度の育成と学力の向上	授業時数の確保及び学力向上を図り、進学体制のより一層の充実のための1年次における特進クラスの設置及び授業改善研修の活性化による教科指導力の向上を目指す。				
	英語コースの特色化・活性化・特進化を推進し、学校全体の活性化につなげる。	英語コースの活性化に向けて、20名の定員で、より効果的で特色ある教育活動の展開と教育関係機関(中学校、大学・国際教育機関等)との連携強化に努める。				
	基本的生活習慣の確立と自主・自律的態度の育成	規範意識の高揚を図るとともに、学習活動への意欲的・自主的態度の育成のための生徒会や生徒を主体とした学校行事(体育大会、文化祭等)の充実と掲示教育の推進に取り組む。				
	進路目標達成に向けての指導体制の確立と指導内容・方法の改善・充実	進路意識の早期確立と意欲の向上を図るとともに、長期休業中における集団学習会、進学セミナー実施等、進路目標達成のために効果的課外授業を実践する。				
	安全・健康教育推進と教育相談体制の充実による教育環境の整備	教育相談を含む生徒支援体制の強化と校内環境美化の促進による学習環境の整備・充実に努める。				
	学校情報の公開と情報管理体制の構築	学校ホームページやインターネットの効果的活用による保護者・地域・同窓会等との連携の強化と個人情報保護に対する意識の高揚と管理の徹底に取り組む。				
	危機管理体制の整備・強化	危機管理マニュアルの整備と職員研修の徹底を図る。				
	人権・同和教育の推進	生徒の人権意識の高揚と人間尊重の精神の涵養に努める。				
	道徳教育の推進	学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。				
	分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
企画部	・校内の円滑な行事運営に努める。	他分掌と連携し、校内の円滑な行事の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案と各分掌との調整に努める。 P T Aと連携を強化し、適切な運営とP T A活動の活性化に努める。	B	B	行事・式典等の円滑な運営のため、他分掌と協力して学校の活性化に努める。 迅速で効果的なアンケートの実施を目指す。次年度はアンケート項目を再考し、よりよい授業実施のための一助となるよう工夫する。 学校要覧・学校案内パンフレットの内容を充実させることはもちろん、次年度は学校案内のポスター作成に努める。以上に加え、より効果的な広報活動が行えるよう他分掌と協力して、学校の活性化に努める。
	・授業アンケートを年間2回実施する。	教務部と連携して、職員の研修体制を整備し、校内の活性化を図る。	校内・校外研修体制の充実を図り、職員研修の推進により教育活動の活性化に取り組む。	B	B	
	・P T A活動の活性化を図る。	学校と家庭との相互理解を深めるためのP T A活動を推進する。	学校要覧・学校案内等の内容充実を図り、効果的広報活動を推進する。 月の行事予定表(細目)を毎月前月の中旬までに配付し、各行事の周知徹底を図る。	B	B	
教務部	・自宅学習時間(1日平均) 1年:120分 2年:140分 3年:160分	教科指導の充実と学力の向上を目指す。	1学年特別進学クラスにおいて、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。	B	B	学力向上プランを見直し特別進学クラスの指導方法を再度検討する。 習熟度別に沿った出題と評価、及び新課程については類型化を促すための基準などを検討する。 授業力の向上とシラバス活用に向けた新たな取り組みを検討する。 ライフレポートを活用した家庭学習時間を確保する。 今年度の生徒異動は、退学4,休学0,転出3。年間の欠席数合計は年々減少している。 書籍のバーコードによる管理の検討。
	・全教科による授業研修会を実施する。		習熟度別(少人数)の授業の実施については、学習効果を高めるために、定期考査の習熟度に応じた出題及び評価を行う。	C		
			生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。	B		
	・出席率 1年:99.5% 2年:99.0% 3年:98.5%		生活指導の充実と授業規律の確保に努める。	学習・生活指導の充実を図るために、ライフレポートの効果的活用に取り組む。		
		出席率の向上に努める。	出席統計と学習時間の統計を毎月提示し、効果的活用に取り組む。	B		
	・読書数 6000冊	読書の推進に努める。	読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。	B		

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題				
生徒指導部	基本的な生活習慣目標 ・課外出席率 97.0 % ・授業出席率 99.0 % ・「あいさつ運動」 各学期毎 3 日間	生徒の「自己指導能力」の育成を基本として、基本的な生活習慣を確立させ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の精神を育成する。	社会規範・校則の遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。	B	B	服装頭髪検査、反省文指導等が学年主体となり、生徒指導部として組織的・積極的な取組ができなかった。また反省文指導の取り扱いについても学年によって大きな差が見られ、生徒指導部としての方針を示すことができなかった。 次年度からは、現在各月ごとに行っている服装頭髪検査の回数・実施方法を見直し、生徒指導部により統一した基準で実施するとともに、日常的な是正指導を中心に据える。また過渡期的指導として捉えてきた反省文指導だが、その成果と課題について協議し、次年度については生徒指導部として全学年で統一した規準や指導方法の確立を図る				
			「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図るとともに、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。	B						
	・部活動目標加入率 75.0 % ・県大会出場 運動部 25 文化部 4 ・九州 3 ・全国 1	生徒の自主・自律性を涵養するために生徒会活動・部活動を活性化する。	職員、生徒、保護者が一体となって「あいさつ運動」の取組を推進する。	A						
			生活指導の徹底を図るために、毎月「生活指導強化週間」を設ける。	C						
進路指導部	・一学年 (1月進研模試) 総合3教科 50.0 ・二学年 (1月進研模試) 総合3教科 48.0 文系3教科 48.5 理系3教科 47.5 ・三学年 (進学実績) 国公立大学 70 人以上 (AO・推薦 40 人以上) (一般合格者 30 人以上) センター受験 75 % (うち二次受験者 65 %) 四年制大学進学率 65 %	<教科指導体制確立> 進路実現のための実力養成を目的とした、教科指導計画の作成とその実践	センター試験受験まで理系5教科7科目・文系6教科7科目(文系一部の4教科4科目)を軸とした、全員必修の時間割を実施する。	B	B	・依然として3年次での成績の下降と進路決定の妥協が問題である。安易な科目の絞込みを防止するとともに、より広い視野による進路目標の設定が必要である。 ・校外模試では1・2年とも数値目標に達することはできなかった。希望進路実現に必要な実力養成が課題である。 ・外部模試の掲示は生徒の学習に対する意識向上に貢献した。 ・課外及び土曜講座については予定通り実施された。生徒の実力を伸ばすことを目指した改善が必要である。 ・集団学習会・キャリア教育・進路説明会については実施内容の改善とともに、より効果をあげるためには事後指導について検討が必要である。				
			年間3回の外部模試では成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。	B						
	<進学体制の確立> 3年間を通じた進学指導の実践により四年生大学進学率 65%の達成を目指す	長期休業中の課外及び土曜講座の年間実施日数は長期休業中課外(25日～30日間)、土曜講座(月2回程度)を確保する。	B							
		発展課外は、それぞれの教科実力上位者による発展的内容とし一年次より継続的に実施する。	C							
	<進路意識の確立> 新南十字(ネサソクロス)プランの実践による、適正な進路希望の早期確立	課外(土曜講座含む)の出欠統計は、上位クラスを毎月5日までに掲示することで出席率の向上を図る。 夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。	大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を一学年5回、二学年3回、三学年は1回を実施する。	B						
			2学年は4月に3学年は5月に保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	B						
			・保健室利用者数の把握 ・保健だよりの定期的発行	生徒及び職員の心身の健康維持増進を図り、事務室と連携し、校内施設の安全管理などにも配慮する。			保健室利用状況に関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医等との連携を図る。	B	B	保健室の利用状況を学年主任、担任に連絡し連携を図る。 委員会の更なる活性化を図る。
							生徒保健委員会の活動を活性化させる。美化委員会によるゴミ集配所の管理徹底を図る。	B		
・清掃に関わる経費の削減、特にゴミ減量についての啓蒙	校内美化活動を推進し、美化意識の高揚に努め、清掃割、ゴミの処理、減量について改善立案する。また、施設の安全改修に努める。	生徒については、委員会活動を活性化し、職員については日常的に掃除監督の徹底を図る。月1回の大掃除を充実させる。	B	B	掃除監督の徹底を図るとともに、美化委員会の活性化、校内清掃活動をさらに充実させる。美化用具の補充を早急に行っていく。大掃除については、強化するポイントを設け、実施する					
		大掃除については、総合学習に位置づけられていることを確認し、美化意識高揚のための事業をより浸透させる。	A							
・生徒情報の把握に努め、学期に1回情報確認の会議を開催する。	教育相談活動を積極的に進める。特に、教育相談委員会、生徒支援活動をより拡張して推進する。	学年・担任・保健室など生徒支援に関わる校内間の情報共有、協議を学年会議、職員会議、教育相談委員会、生徒特別支援チーム等を通して図る。	A	A	教育相談活動では、特別支援チーム等を通して連携を図るとともに、気になる生徒は継続的に学年主任、担任等から状況等確認していく。					
		保護者・専門機関との連携をすすめ、より良い生徒支援を推進する。	A							

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
情報部	ホームページ更新 年間12回以上	学校情報の公開	ホームページの再構築を図り、更新体制を整える。学校の情報発信源となり得るホームページを目指す。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは組織的に内容を検討し、定期的に更新を行う体制づくりが必要である。 ・職員研修は早めに企画立案が必要である。
	職員研修 年間2回以上	情報管理体制の構築	職員のニーズに合わせた研修や、ICT環境の改善に伴う研修を実施する。	A		
	校内ネットワークの新規則に非対応の項目 年度内に0	危機管理体制の整備・強化(情報管理の観点)	校内ネットワークの規則の改正に伴い、今後規則に反することになる機器を撤去する。その上でセキュリティの確保と使い易さを考慮して生徒用ネットワークを再構築する。	A	A	
人権・同和教育推進委員会	生徒の活動に関わる領域	就学・修学保障の取組	経済的にきびしい生徒への支援(奨学金等の案内)を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ①経済的に厳しい家庭には教育加配教員より奨学金などの制度を周知させる。また、校納金の未納を無くすように定期的に家庭に連絡する。 ②帰国子女等の生徒への取り組みは、国語・古典等の取り出し授業を充実させる。 ③生徒の自主活動については中高連絡会で生徒の実態を把握し、地区と家庭と連携しながら活動に結び付ける。 ④「障害」のある高校生の集いについては「障害」のある生徒が悩みや思いを打ち明けられる場所となるようにする。 ⑤人権・同和教育については視聴覚教材を生かして実施し、一定の成果があった。「障害」者問題に関連して「発達障害」について生徒の理解を深める授業が必要である。 ⑥職員研修については年度当初の校外研修の募集だけでなく、2学期初めに校外研修の再募集を行うなどの効率的な参加体制を作る必要がある。地区全体研については来年度より輪番で発表する。
			「障害」のある生徒・帰国子女等への支援を行う。	B		
		進路保障の取組	「言わない・書かない」の主旨を十分に理解させる。奨学金等の進学に向けての支援を行う。	A		
			部落研活動の支援を行う。	B		
		自主活動に対する支援	朝文研活動の支援を行う。また、外国籍の家族を持つ生徒へのアイデンティティ教育の在り方を考察する。	B		
			「障害」のある高校生の集いの支援を行う。	A		
	人権・同和教育特設授業の充実	特設授業の資料などを整理・検討をする。	B			
	職員の活動に関わる領域	特設授業の充実	事前・事後の学習会を充実させる。	A	B	
		職員の校内研修・校外研修の取組	全職員参加を目指す(年度当初に参加を募り、9月に参加できなかった職員へ追加募集を行う)。校内研修会は年2回の実施を効果的に行う。	B		
広報活動の充実		研修会の案内や報告・特設授業の反省など広報活動に努める。	B			

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題			
一学年	1月進研模試 3教科偏差値50.0 GTZ人数 B1以上95人 うちA3以上35人 授業出席率 99.5% 課外出席率 98.0% (長期休業中、土曜講座を含む) 自宅学習時間 1日平均120分以上	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事(自助と共助を学ぶ宿泊体験)を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。	B	B	・生活指導については、規範意識の確立と個別指導を強化する。学校の中核学年となり、大きな行事を牽引していかなければならないため、集団としての意識づけを徹底していく。 ・各種テストについては、事前指導・事後指導を強化していく。また、短時間の平日課題など課題の工夫に努める。 ・類型化することで、きめ細かい指導を実施していく。 ・全体的には、安易に妥協させない指導を継続し、学年全体としての実力の底上げに努める。			
		授業規律の確立と基礎学力の定着	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。 習熟度別授業等を実施し、生徒の実態に応じた「分かる授業」を展開する。	A					
		将来を見据えた進路目標の設定・進路選択	進路指導部と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。	B	B				
		人権意識の高揚	教育活動全般を通じて人権意識の高揚につとめる。	B					
		二学年	出席率 授業出席率 99.0% 課外出席率 97.0% 1月進研模試 国数英 48.0 50以上 85名 56以上 35名 自宅学習時間 1日平均 140分以上	基本的な生活習慣の確立、モラル・マナーの向上	勤勉指導(遅刻・欠席指導)の徹底と頭髪・服装検査の徹底により、基本的な生活習慣や高校生らしい身なり、また規範意識を身につけさせる。		C	C	・年度当初より落ち着いた見られるようになったが、表面的であり意識レベルまで感じられない。今後も継続した指導により改善を促していく。 ・家庭学習時間の拡大のための工夫が必要である。また、習熟別発展課外の実施の検討。 ・授業を中心に学力養成を図り、進路情報の提供により具体的志望校を早期に決定させる。 ・生徒間の意識の差が大きくなった。個々の能力にあった進路目標を設定し、取り組ませる。
				授業規律の確立と基礎学力の定着と向上	チャイムからチャイムまでの授業の徹底。教室内の学習環境の整備(清掃指導の徹底)により、授業規律の確立をはかる。 習熟度別授業による生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上をはかる。		B		
進路意識の高揚と進路目標の早期決定	進路部と連携し、進路行事(進路説明会等)を通して進路情報の提供と進路意識の高揚につとめる。 各学期に進路面談を行い、適切な進路選択と進路目標の早期実現をはかる。			C	B				
				B					
三学年	・授業出席率98.5% ・課外出席率96.0% (長期休業中含む) ・1日平均160分 ・大学進学結果 国公立大学70人 (AO・推薦 40人以上) (一般合格者30人以上) センター受験75% (二次受験65%) 4年制大学進学率 65%	進路目標達成に向けた教育活動の実践および自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成を目指す。	進路指導部との連携を強め、進路意識の高揚を図る。また適切な進路情報の提供や個別面談を重視し、生徒一人一人の第一希望進路達成のため全力を尽くす。	A	B	1年生の時から看護医療系の分野を希望する生徒へ現状を理解させる事や理科の物理・生物の選択について詳しく情報提供する。 模試復習会の1年次からの実施など学習に対する意識を向上させる。 学年の生活指導の体制作り、共通認識など各職員の意識改革。 生徒の状況把握や悩みの早期発見ができるように学年職員が連携を取っていく。 進路講演などを有効活用できるように計画を立てる。 各教科の課題の状況把握なども含めて学年教科責任者の話し合いを持ち、情報の共有をする。			
			習熟度別クラス編成と習熟度別授業の実施、放課後学習(含遅刻・欠席者指導)の充実等により、学力の向上を図る。	B					
			進路説明会や学年通信等を利用し、進路情報を適切に保護者に提供し、学校・生徒・保護者が一体となった進路指導の実践に取り組む。	B					
			校外模試の結果を迅速・適切に分析し、生徒の実態把握と目標達成のための具体策を講じる。	B					
			課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。	B					
			学校生活全般を通して、「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての自覚を促す。	B					